

私の好きな場所

ランクアップ代表取締役
岩崎 裕美子

(WASAKI YUMIKO)



日本の「田舎」を都会で暮らす自分の子どもにも味わわせたい。わたしは2カ月に1回、子どもを連れて郷里である北海道の当別町に行くことにしています。

当別町が特段、観光資源の豊かな場所というわけではありません。皆さんが「田舎」と聞いて想像する景色、まさに何も無い田園風景が見渡す限りに広がっているようなところです。夏になると青々とした木々が森に生い茂り、冬になれば深々と真っ白な雪が一面を覆う。石狩川のせせらぎが耳に届き、虫の鳴き声がこだまする。そんな場所で生まれ育ったわたしの性

格を一言で表すと、天真爛漫。伸び伸び育てられたと思えます。

ですから、仕事でどんなに辛くても「人生は劇場だ。逆境はドラマを面白くする山場に過ぎない」と捉える自分の性格は、こういった自然に育まれたような気がします。また、起業家として歩んできた約10年は、無我夢中で仕事に没頭し、辛いと思う暇がないほどでした。

それでもわたしが子どもを故郷に連れて行きたいと思ったのは、東京では子どもが大自然と触れ合うことができないからです。銀座で仕事をしていることもあって、家族で湾岸エリアに住んでいるのですが、どうしても自然が少ないように感じます。

自宅の周辺では人工的に木々や芝などが植えられています。が、それでも天然の山、木、土といった大自然が与えてくれる風や雨、雪、そして土が持つ肌感覚を再現することはできません。

北海道・当別町



夏には見渡す限りの青空に新緑の木々が伸び、冬には真っ白な雪が視界の一面を覆う北海道・当別町

休日、近くの公園に5歳の息子と遊びに行つたとき、「エーン、エーン」と突然、息子が泣きだした。何が起つたかと心配すると、「蟻が寄つて来たよ！」と悲鳴のような声を上げる。東京に住んでいると、虫がいないことが当たり前なのです。

何よりも、生活すべてが自然と一緒にあり、自然の環境で育つことの意味を子どもに学んでもらいたいと思っています。